

ができました。例をあげれば、大使館員とのワークショップ、関連 NGO とのオフレコミーティング、およびネットワーキング、ファンド・レイジングのためのレセプション、有名シンクタンクの一般講演会、大学の授業・講演会、キャピタルヒル・ツアーなどと、動き回れば機会は無数にあります。ホワイトハウス、キャピタルヒルでのデモ行進に遭遇することもしばしばです。他の都市でも同じようなインターンシップができるかもしれませんが、それでもワシントンは政治学が専門の人にとって最高の環境にあると思います。(テロが起こる可能性も同じく最高の環境ですが・・・)

二つ目に、「仕事(インターンシップ)では、全ては自分次第である」ということです。当たり前のことですが、これを改めて確認するまでに私は時間がかかりました。特に私の場合、「ネイティブでなく、おぼつかない英語」と「専門性のなさ」が問題でした。ボスに気の利いた冗談を言って笑いを取ることは難しいし、一言でも英語を聞き間違えたりしたら仕事上命取りになりかねないし、ネイティブの学生インターンよりも任せられる範囲が限られてくると、初めはかなり自問自答の日々でした。心の叫びは、「こんなはずじゃなかった・・・」と、仕事中に一人椅子に座りパソコンの前で考え込むことしばしばでした。その中で、自分にはこの職場に何を貢献できるのか。どうやったら、先輩たちに認められることができるのか。それには、積極的に自分を出して、会話にも参加して、やりたい仕事を要求して、自己アピールをしなければならぬと思うようになりました。ここでは待つだけでは、仕事はやってきません。DC のとある利益団体で実際に働いている日本人の方の話からも感じたことですが、ここに日本と大きな違いがあるようです。日本では一応マニュアルや研修があると思いますが、アメリカではこちらから働きかけないと何も与えられません。ここは、全ては自分次第、自分そのものが問われているのではないかと気がつきました。英語がネイティブでないと引け目を感じて、小さくなっている自分に気がつきました。自分から壁を作っていたわけです。集中して英語を聞けば大半の趣旨は理解できるので、その上で日本語だったらどう対応できるのかと考えると、結局問題は同じことなのです。自分の至らなさ、弱さ、足りないところが改めて認識できる、いい機会になりました。全ては自分次第であると思って仕事に挑んで、失敗の方が多いですがたまに上手くいったような場合には、とても大きなやりがいを感じます。

三つ目に、「インターンシップに期待しすぎはいけない」ということ。いいかえれば、インターンシップをすればいいというものではない、ということです。少なくとも最近の日本の大学では「インターンシップ」は学生には非常に魅力的で人気のあるものになってきています。むしろ言葉が独り歩きしているさえ思います。気をつけなければならないのは、インターンシップ生としてできることは限られているということです。期間は限られていますし、即戦力としての専門性はありせんし(僕の場合は、逆に日本語関連資料の収集、翻訳という仕事がありました)、しかも僕は帰国子女でもない日本人交換留学生で英語が

ネイティブではありません。インターンシップ生はお金が目的ではないので、それぞれ個別の目的や動機があってすると思います。(海外)インターンシップに過大な期待・信頼を抱いて、やれば何か得られるだろうと受身の姿勢で期待せずに、自分なりの尺度で何をしたいのか、何のためにするのか、何をしたいのかを考えて仕事をする、終わってから自分の中で形に残るのではないかと思います。

以上、僭越ながら今後日本での就職活動を控えている自分への教訓の意味もこめまして、ワシントン DC でのインターンシップで感じたことを紹介させて頂きました。もちろん僕の個人的な考えなので、他にも色んなインターンシップの捉え方があるのはいうまでもありません。この機会に日本からの一交換留学生が初めての英語インターンでどう感じたかを知ってもらえたら幸いです。帰国子女でバイリンガルの方、本当に羨ましい(ズルイ!)と思いました(笑)おそらく、十年後にどこかで働いている自分がこれを見たら、未熟者ぶりに鼻でせせら笑うんだろうな、とそう思います。ええい、今のうちに笑っておこう。「あっはっは、、、はっ、違った。AHAHAHAHAHA!!」



決してアメリカ政治をなめているわけではありません!

馬場 健夫

ばば たけお

早稲田大学政治経済学部政治学科 3 年在学中

University of California, Santa Barbara 校へと一年間の交換留学を終え、再び、早稲田大学で勉強中。

編集長から一言

馬場君、留学を終え、多くの体験と思い出を持って、元気で日本へ帰国。会って話を聞きました。早稲田大学に戻り、勉強と就職活動です。機会があれば、帰国した後の感想などを書いてもらいましょう。